

しょうがくせい みな  
小学生の皆さんへ

いよいよ梅雨入りとなり、しばらく雨とおつきあいが続きます。特に今年は、日本中どの地域も、豪雨の

被害だけは免れますようにと、祈るばかりです。学校では分散登校が始まり、校内に皆さんの姿があるとい

う日常が、なんとも嬉しい日々です。

きのう がつ とき きねん び いま ねん まえ じだい てんのう みずどけい お たいこ かね  
昨日6月10日は「時の記念日」でした。今から1350年も前、その時代の天皇が水時計を置き、太鼓や鐘

で時を告げたことを記念しています。その日が、今使っているカレンダーにすると6月10日で、しかも、今年

2020年は「時の記念日」が制定されてからちょうど100年ということになるのだそうです。

みずどけい とき なが はか たいこ かね とき つ じだい いま とき はか ほうほう  
水時計で時の流れを計り太鼓や鐘で時を告げていた時代から、今や、時を計る方法はすっかりデジタルに

なり、数字で表される時間が一般的なのではないのでしょうか。長い針と短い針で表される時計すら、ほと

んどなじみのない人たちが増えてきているようにも思います。こうした変化を見るだけでも、時の感じ方とい

うのは、時代によってずいぶん変わってきているに違いないと、「時の記念日」に改めて感じさせられます。

しんやくせいしょ せかい じんご とけい はか ちが とき きねん び あらた かん  
新約聖書の世界では、ギリシア語をもとに、時計で計ることができるような、だれもが同じように使う時を「ク

ロノス」、そして、時計で計ることができず、それぞれの人に意味があるような、心で感じる時を「カイロス」と

よ くらべつ にほんじん かんかく つか わ けいけん  
呼んで区別しています。日本人の感覚ではそのように使い分けることはありませんが、ふだん経験している

じかん なか じぶん たいせつ いみ とき  
時間の中に、たとえわずかであったとしても、自分にとって大切な意味のある時があったということは、なんと

なく想像できるのではないのでしょうか。もちろん「永遠」という神様の時も、時計では計ることができません。

しんがた とも い じだい とけい はか じかん なか らいしゅう  
新型コロナと共に生きていかなければならないこの時代。時計で計れる時間の中で、来週はどうなっている

か、いつまでこの状況がつづくのかと、あくせくする日々です。でもそんな時間を

こ えて えいえん とき おも は おも わたし いのち  
超えて、「永遠」という時に思いを馳せてみてほしいと思います。私たちの命は

すでに神様と共に永遠という時を生きているのですから。

